



平成 19 年 1 月 29 日 発行 第 4 6 号

国際フィッシングショー2007

開催せまる

●出展社説明会・小間割抽選会開催

10月5日(木) 東京・エンパイアビル会議室で
出展社説明会ならびに小間割抽選会が開催され
た。

●記者発表会開催

10月26日(木) 東京・日本フィッシング会館に
おいて国際フィッシングショー2007記者発
表会が開催された。

●イベント決まる

1. エコアングラーのためのエコロジー標語発表会

広く釣りファンに覚え、実践していただきたい「釣り場環境の保全」「魚種の保全」「水質の保全・改良」など、釣り人が取り込むことのできる、釣りに関するエコロジーな行動を促すメッセージを募集。会場で発表いたします。

2. 新鮮! お魚グルメパーク

魚の美味しさを味わえる新コーナーでは、新鮮な魚が食べて買えるグルメパークを開催。

3. ワクワク! ウキウキ! 大抽選会

ドカン! と 500 万円分プレゼント

4. ノベルティ マーケット

ここでしか買えない掘り出し物が!

5. 第2回クール・アングラーズアワード

受賞者を招いてのトークショー

6. お魚ふれあい王国

本物のマス釣り体験・ふわふわシーワールド
金魚すくい&どじょう釣り

The Meijinの釣りドリームトークショー

エコロジー工作所・魚拓コーナー

水族館の人気おみやげ大集合

伝統工芸コーナー

などなど盛りだくさん

CONTENTS

◆ J I S P O 関連記事 P. 1
イベント・出展者説明会・記者発表	
◆ 環境eマーク P. 2
◆ 釣用品の国内需要動向調査報告書 P. 3
◆ 国際通信 P. 4
◆ 理事会・委員会レポート P. 5
◆ 平成19年度総会・理事会日程 P. 6
◆ 会員動向・事務局だより P. 7

— 速 報 —

環境保全マーク（eマーク）の認定 第1弾！！

当工業会では、釣りレジャーの地位向上のため、社会と共生できる釣りを目指し、環境に配慮した道具づくりをはじめとして、国民生活を豊かにする釣りの創造に積極的に取り組んできております。

その一環で、数年前から環境に配慮した釣り道具に対して、「環境保全マーク」（eマーク）を当工業会として認定する規程・基準づくりを行ってきました。

ようやく、この厳しい規程をクリアした、環境にやさしい製品が申請され、「環境保全マーク」（eマーク）の認定の第1弾としてこのたび承認されましたので、その製品をご紹介します。



認定商品のご紹介（順不同）

(1) (株) フジワラ 大分類「オモリ」

(代表商品名)

「 スカリー ミニ 」

「 ワンダー I 」

「 ローリングサルカン 」

(材料特色)

: スズ・ビスマス系

: 鋳鉄製

: 銅・亜鉛合金

(2) ダイワ精工(株) 大分類「オモリ」

(代表商品名)

「 トップガン 」

「 SW タングステンロックフィッシュジグヘッド 」

「 TD タングステンジグヘッド 」

(材料特色)

: タングステン

: タングステン

: タングステン

(3) マルキュー(株) 大分類「ソフトルアー」

(代表商品名)

「 レイダウン 」

(材料特色)

: 生分解性プラスチック

(4) (株)ゲインコーポレーション 大分類「オモリ」

(代表商品名)

「 ザップ ダウンショット 」

(材料特色)

: ノバミット MC102K13

(5) 富士工業(株) 大分類「オモリ」

(代表商品名)

「 タングステンデルナー 」

(材料特色)

: タングステン

国内需要動向調査報告書のまとめの速報

情報調査委員会

(社)日本釣用品工業会の情報調査委員会では、定例的に続けてきた釣用品の国内需要に関する業界調査を本年度も実施し、「第11回釣用品の国内需要動向調査報告書」としてまとめました。まだ皆様方のお手元には届いていないかと思いますが、速報として一部をお知らせ致します。この調査は当工業会が企画立案し、調査表の回収・集計・直接面接による実態調査は、(株)矢野経財研究所が担当したものです。

調査の目的は、わが国の釣用品業界の実態を出荷量と需要動向の面から明らかにし、製造業や流通業として今後検討すべき課題を提示することで、会員の皆様、業界関連企業など多くの方々に参考として提供するものです。

釣用品の需要量

【釣用品の市場規模】

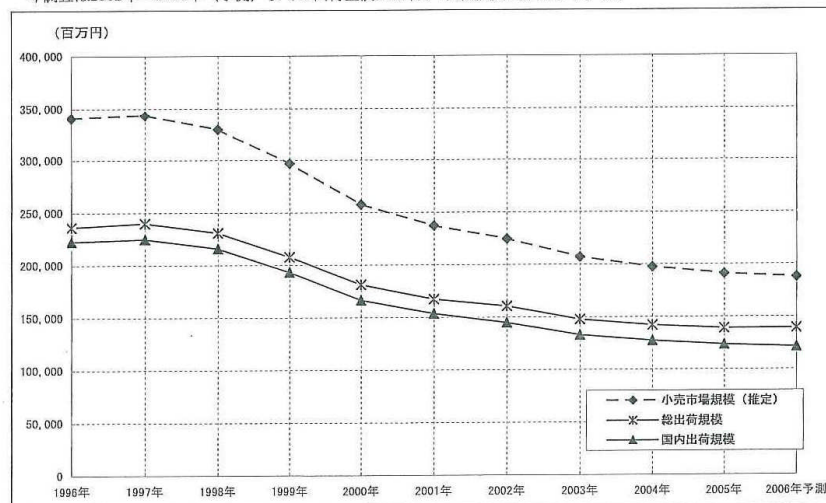
(単位：百万円、%)

	国内出荷規模		総出荷規模		小売市場規模(推定)		
	前年比	対小売比	前年比	前年比	前年比		
1996年(平成8年)	222,630	104.5	64.7	236,385	104.6	340,460	104.9
1997年(平成9年)	224,750	101.0	65.5	239,929	101.5	343,120	100.8
1998年(平成10年)	216,030	96.1	65.6	230,900	96.2	329,520	96.0
1999年(平成11年)	193,310	89.5	65.1	207,831	90.0	296,890	90.1
2000年(平成12年)	166,690	86.2	64.7	181,424	87.3	257,820	86.8
2001年(平成13年)	153,800	92.3	64.8	167,562	92.4	237,460	92.1
2002年(平成14年)	144,940	94.2	64.5	160,510	95.8	224,680	94.6
2003年(平成15年)	133,140	91.9	64.2	147,854	92.1	207,370	92.3
2004年(平成16年)	127,530	95.8	64.6	142,146	96.1	197,500	95.2
2005年(平成17年)	123,610	96.9	64.7	139,250	98.0	191,060	96.7
2006年(平成18年)予測	121,390	98.2	64.6	139,300	100.0	187,900	98.3

※総出荷規模＝国内出荷＋輸出

小売市場規模は商品分野ごとの国内出荷規模に流通段階での粗利益率を考慮した推計値である。

なお、粗利益率は年による変動を考慮せず一定としており、小売市場規模の推移は国内出荷規模に連動している。今調査は2002年～2006年(予測)までの出荷量調査を行い市場規模を算出している。



J A F T M A U S A ~国際通信~

○ASA 2006年度年次総会の報告

去る10月18日から20日の3日間、カリフォルニア州サンディエゴのParadise Point Resortで開催されましたASA 2006年度年次総会の模様を報告いたします。今年の参加者は70社、160人です。例年のように初日に各Committee(部会)の会議がありました。(ASAの部会は13あります。)夜はWelcomeレセプションにて和気あいの雰囲気の中、新旧のメンバーが友好を深めておりました。

2日目はASA Mike Nussman 会長より参加者への歓迎の挨拶と新理事長に就任しましたLandy Lemcke氏(Plano Molding Co. 副社長)の紹介また過去2年にわたり理事長をつとめていただいたDavid Pheiffer氏への感謝の言葉が述べられた。その後午前・午後に分け、来賓および講師を招いてのセッション・講演会が開催された。今回は招待講師を招いた講演が2講座、ASAメンバーによるパネルセッションが2セッション開催されました。夜はバンドが入った晚餐会場に移り、華やかな雰囲気の中で食事、ダンスと楽しい時間を過ごしました。

最終日も午前には講師を招いての講演とパネルセッションがあり、午後よりASA総会の締めとなるNussman 会長によるASAおよびSportsfishing全体の今年の状況および今後の傾向等の説明が有り無事総会を終えました。

講演

- ・Thihkig Smarter About Pricec And Profits
- ・China、Rise Of The Next Superpower

セッション

- ・カリフォルニア州での禁漁区域の設立による業界への影響
- ・グローバルエコノミーの中での釣り具業界

○“Angler`S Legacy”の紹介

さて今年の総会にて今後ASAとして大きく展開していくキャンペーンについての説明がありましたのでご紹介いたします。“Angler`S Legacy”「釣り人の遺産」キャンペーンと題し、釣り愛好家達(USAでは釣り人3400万人の内、愛好家と呼ばれる釣り人は750万人程いるとされています。)に釣りをしていない家族、友人、会社の同僚達と一緒に釣りをしようと声を掛け釣り場に連れて行き、仕掛けや釣り方のノウハウを教えて釣りの醍醐味を味わってもらう事により、多くの釣り人が益々代々にまで釣りというスポーツが引き継がれていくというキャンペーンです。

ASAの統計によると現在35歳以上の釣り人の90%は釣りを祖父や父親から教わったのですが、35歳以下の釣り人はその35%しか祖父や父親から教わっていないとのことで、今後も釣りをしない若い両親が増えることで釣りを教わる子供たちが益々減る傾向になるのを防ぐため、釣り愛好家たちの協力を得て多くの年齢層の人たちに釣りを楽しんでもらい、その子孫への伝達を願っています。



J A F T M A A S A 西岡 俊夫

理事会・委員会レポート

平成18年度は、役員改選もあり新体制でスタートしました。同時に、各委員会の組織及び委員も新たに再編されました。委員会活動も実質的にスタートしたのが、6月に入ってからでしたが、下表の通り活発な委員会活動を行っております。委員の皆様方には、大変ご苦勞をお掛けいたしますが、今後ともご支援・ご協力を宜しく御願いたします。

区分	開催理事会・委員会		開催日	主な審議・決定事項
理事会等	常任理事会	第48回	6月22日	日釣工運営全般にわたる懸案事項について議論し決定する。 ・フィッシングショー関連事項の検討 ・各委員会活動内容について検討・承認 ・その他報告承認事項
		第49回	7月27日	
		第50回	10月26日	
		第51回	12月20日	
	理事会	第77回	7月27日	
		第78回	10月26日	
第79回		12月20日		
委員会活動	広報・見本市委員会	第90回	6月21日	「国際フィッシングショー2007」の実施運営及び企画イベント内容等に関して検討・決定する。 ・イベント企画の立案 ・実行プランの作成 ・制作関係の決定等々
		第92回	8月23日	
		第93回	9月15日	
		第94回	10月18日	
		第95回	11月22日	
		第96回	12月11日	
	情報・調査委員会	第16回	6月14日	「第11回釣用品の国内需要動向調査報告書」の取りまとめを中心に活動している。 ・報告書の内容の検討 ・結果をとりまとめ、報告書として発行する
		第17回	9月26日	
		第18回	12月6日 12月7日	
	製品安全対策委員会	第1回	9月27日	「釣用品の安全表示に関するガイドライン」の見直しを図ることを中心に活動している。 ・ガイドラインについて個別商品について再検討 ・PL問題について検討 等々
		第2回	11月9日	
		第3回	平成19年1月16日	
	環境保全委員会	第1回	9月7日	認定・環境保全マーク事業の推進を図る。 ・認定申請書の見直し ・認定商品の促進 ・釣用品業界の環境対策について検討 等々
		第2回	10月16日	
		第3回	12月8日	
	知的財産委員会	第1回	9月13日	「釣用品の模倣実態調査」による模倣対策と防止策の検討及び知的財産保護の啓蒙活動を行っている。 ・釣用品の模倣実態の調査を実施 ・啓蒙活動として、フィッシングショーへ模倣実態の展示 等々
第2回		10月27日		
第3回		12月21日		
生産・規格委員会	第1回	9月12日	業界管理規程「JAFS(団体規程)管理規程」の見直し改善を図ることを中心に活動している。 ・消費者から見た業界標準の問題点について洗い出し、具体的に検討していきます。	
	第2回	10月31日		
釣糸部会	第1回	12月18日	・釣糸部会として、管理規程の見直しの検討を行った。	
青年部会	第1回	9月13日	日釣工の将来のあるべき姿について、現状認識から始め、業界の現状の問題点及び将来の目標等について幅広く議論・検討を行っていきます。	
	第2回	10月27日		
	第3回	12月21日		
遊漁船業法研究会	第41回	7月13日	「遊漁船業法研究会」は主に、撒き餌問題を中心に毎月開催し、各県・地域ごとの対策結果・今後の対策について検討しており、結果、撒き餌解禁された県も相当増加してきています。更に進捗を図っていきます。	
	第42回	9月14日		
	第43回	10月19日		
	第44回	11月16日		
	第45回	12月14日		

	日本釣用品工業会		全国釣竿公正取引協議会		(財)日本釣振興会		釣り関係者への挨拶	
19年								
1月					地区支部長会	17日(水)		
2月							フィッシングショー-OSAKA2007インテックス大阪 2月2日(金)~4日(日) JISPO2007 パシフィック横浜 2月9日(金)~11日(日)	
3月	第52回常任理事会 第80回理事会	14日(水)	第108回理事会	15日(木)	常任理事会 理事会	7日(水)		
4月								
5月	第53回常任理事会① 第81回理事会① 第15回通常総会 (第82回理事会)	24日(木)	第109回理事会 第23回定時総会	25日(金)	常任理事会 理事会 第37回評議員会	9日(水) 23日(水) 23日(水)		
6月							EFTTEX 2007 EU(プラハ・チェコ) 6月15日(金)~17日(日)	
7月	第54回常任理事会②	26日(木)			常任理事会 地区支部長会	11日(水)	ICAST2007 米国(ラスベガス) 7月11日(水)~13日(金)	
8月								
9月					常任理事会 理事会	12日(水)		
10月	第55回常任理事会③ 第83回理事会②	25日(木)	第110回理事会	24日(水)				
11月								
12月	第56回常任理事会④ 第84回理事会③	20日(木)	第111回理事会	19日(水)	常任理事会 理事会	12日(水)		
20年								
1月					地区支部長会	16日(水)		
2月							フィッシングショー-OSAKA2008インテックス大阪 2月1日(金)~3日(日)(案) JISPO2008 パシフィック横浜 2月8日(金)~10日(日)(案)	
3月	第57回常任理事会⑤ 第85回理事会④	13日(木)	第112回理事会	12日(水)	常任理事会	5日(水)		

会 員 動 向

※第78回理事会で次のとおり加入3社・退会2社が承認されました。

＜入会会員＞

- ◆株式会社UKインターナショナル 代表取締役 鶴山 和洋
〒164-0003 東京都中野区東中野 3-15-22-B1F tel03-5925-1611 fax03-5925-1616
- ◆株式会社常吉 代表取締役 村上 晴彦
〒606-8414 京都府京都市左京区浄土寺真如町 162-6 tel075-762-4510 fax075-762-4523
- ◆青森宝栄工業株式会社 取締役社長 原 正
〒039-3214 青森県上北郡六ヶ所村大字平沼字田面木 246 tel0175-75-3121 fax0175-75-3125

＜退会会員＞

- ◆株式会社シュガーレイマリーン 代表取締役社長 宇都宮 康綱
〒874-0834 大分県別府市大字鶴見 3072-1 tel0977-66-7373 fax0977-66-6625
- ◆株式会社ラージ 代表取締役社長 大岩 巖
〒640-8036 和歌山県和歌山市東鍛冶屋町 35 大岩ビル tel073-422-0241 fax073-422-5426

※新役員就任のお知らせ

- ◆有限会社財津釣具の代表取締役社長に
土肥靖典氏が就任されました。
- ◆高階救命器具株式会社の代表取締役会長に
高階義尚氏が就任され、代表取締役社長に
高階尚也氏が就任されました。
- ◆ヒロミ産業株式会社の代表取締役に
広瀬基司氏が就任されました。
- ◆有限会社サンフィッシングの代表取締役社長に
西村かよ子氏が就任されました。
- ◆五十鈴工業株式会社の取締役会長に
林 幸雄氏が就任され、代表取締役社長に
林 隆雄氏が就任されました。
- ◆大同石油株式会社の取締役会長に
小澤 正氏が就任され、代表取締役に
小澤一平氏が就任されました。

※資料発送のお知らせ

「第11回 釣用品の国内需要動向調査報告書」
がまとまり、発送準備の段階です。会員皆様のお手元には1月末頃お届けできると存じます。
購入をご希望の方はご連絡お願いいたします。

会員価格 1冊 3,000円

一般価格 1冊 20,000円

事務局だより

ホームページによるJAFTMA NEWSの掲載はいかがでしたか？

会員様向けのメルマガを発信しますとアドレスをお聞きしたところ大変な反響で、会員皆様の当工業会に対する期待を強く感じております。会員皆様のご意見・ご要望を反映し、役立つ情報ソースとしてメルマガ共々宜しくお願いいたします。

初の試み、至らない点等々ありますが今後とも宜しくご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

JAFTMA
JAPAN FISHING TACKLE MANUFACTURERS ASSOCIATION
社団法人日本釣用品工業会
〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-22-8 日本フィッシング会館
TEL 03(3555)0101(代表) FAX 03(5542)2929